

## 絵本美術館と絵本原画展——絵本との出会い

執筆者：竹迫 祐子

掲載誌：『絵本事典』 2011年11月25日 朝倉書店

### 絵本美術館

絵本美術館とは、絵本の原画を中心に、絵本と絵本作家の作品、資料を収集、保管、研究、展示、公開を主目的に設置された専門美術館をいう。

「絵本美術館」という名称をはじめて冠した美術館は、1977年9月に開館した「いわさきちひろ絵本美術館（現、ちひろ美術館・東京）」（東京・練馬）で、同館は、「絵本文化の発展」と「子どものしわせと平和」という二つを基本理念に掲げてスタートした。絵本の原画を人類の文化と位置づけ、美術品として扱う思想を持って、博物館法に基づく登録博物館である。1946年に定められた博物館法は、その第2条に「博物館」を、「歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関」と定義している。また、第3条に、事業内容として、「資料の収集、保管、展示、調査研究とその報告書の刊行、資料に関する講演会、講習会等の開催、並びに、社会教育における教育活動の奨励」等々を掲げている。同法に基づくならば、絵本美術館とは、絵本を対象とする専門美術館で、絵本や絵本のための作品等の資料を収集、保管、展示公開、調査研究し、社会教育における教育活動を行う場と規定できる。現在、日本の絵本美術館の多くは、登録博物館ではないが、設置運営母体の違い、規模の大小、コレクションの性格の違いに関わらず、その機能、社会的な役割は同様のものと考えらるべきであろう。

ここで、特筆すべきは、「作品の保管」という活動である。絵本原画は、絵本の印刷のための原稿、つまり、印刷美術という性格を持つため、美術作品でありながら、取り扱いが原稿という域を出ない。印刷工程の中で、作品損傷の危険に晒されケースも少なくない。故に、美術作品としての取り扱いや保管上で作品保存の視点は、絵本原画を後世に残し伝えていく上でも、絵本美術館の果たす役割は大きい。

### 日本の絵本美術館

日本では、2011年現在、30を越える絵本美術館が存在するが、それらは、その設置・運営主体によって、

1. 市町村等の自治体による設置・運営
2. 財団法人による設置・運営
3. 企業体による設置・運営
4. 個人による設置・運営

に分類することができる。また、設置目的やコレクションの性格、恒常的に行っている主要な展示の性格によって、

A. 特定の個人の絵本作家の作品を紹介する記念美術館

B. 複数の絵本作家の作品を総合的に紹介する総合美術館

に分類することができる。

これだけ多くの絵本美術館が存在するという状況は、他の国では例を見ない。それにはいくつかの要因が考えられるが、最も大きいものに、1960年代から70年代にかけての絵本の隆盛があげられる。この時期、絵本作家や編集者を中心に、絵本とは何か？絵本表現はどうあるべきか、といった議論が盛んに行われた。独創的で個性的な創作絵本が数多く誕生し、絵本が大衆的な広がりを見せた、いわゆる、絵本ブームと呼ばれた時代である。この時期、絵本の美術的な表現が大きく発展し、絵本の原画の展覧会（絵本原画展）も盛んに行われるようになった。そうした中で、1977年、いわさきちひろ絵本美術館が誕生するが、同館の理念と活動、並びに、それに対する大衆的な支持が、その後、日本に多くの絵本美術館が誕生するさらなる誘因となったことも見落とせない。

今日、存在する日本の絵本美術館の多くは、1980年代の後半から90年代にかけて誕生したことを鑑みると、同時期の日本経済のバブル状態が多くの個人美術館、企業美術館の誕生を後押ししたことが伺える。日本経済の膨張が、美術品の購入や美術館建設をという形での資産取得を誘発する傾向を生み、日本各地で美術館そのものが急増した訳だが、同様の土壌の上に、絵本美術館も数多く誕生し、今日、世界に比類なき絵本美術館大国を形成することに繋がった。このことは、絵本の楽しみ方の幅を広げ、絵本研究、作家研究のきっかけを増やすといった側面とともに、美の殿堂として大衆と遊離しがちであった美術館という存在を、親しみやすい存在に変える一翼を、絵本美術館が担ったということも言える。一方、絵本美術館の中には、家族規模での運営も多く、そうした施設の中には、研究や保存という点で、課題や悩みを抱える美術館があることも事実である。また、今日、絵本の原画やイラストレーションの紹介を中心に活動する小規模なギャラリーも、都市部では活発な活動を展開してきている。

絵本の専門美術館ではないが、近年では絵本原画展を恒常的に開催したり、絵本原画を収集する美術館も増えてきている。特に1996年にゆとり教育が学習指導要領にお盛り込まれ、'98年に小中学校の週休2日制が導入されてからは、子どものための社会教育施設として美術館・博物館の果たす役割が、より強く期待されるようになるにつれ、以前にも増して、多くの絵本原画展が開催されるようになった。

## 海外の絵本美術館

海外では、21世紀に入るまでは、ヨゼフ・ラダやワンダ・ガーク、ベトリクス・ポター等、絵本作家の個人記念館が絵本美術館の主流であった。絵本の専門美術館が登場するのは、1998年に開館したドイツのトルースドルフ絵本美術館(市立)と、絵本作家エリック・カールが財団として設立し、2002年に開館したエリック・カール絵本美術館ということになる。その一方で、比較的早い時期から、一般の美術館が絵本の原画を収蔵しているケースも少なくない。その辺りは、欧米にはファインアートと絵本をともに手がける画家が多いという、日本とは異なる土壌があるだろう。また、近年、シカゴ美術館（アメリカ）やイスラエル国立美術館（イスラエル）のように、絵本原画を意識的に収集し、

館内の子どものためのギャラリーで常設的に展示する美術館も出てきており、アメリカ、イギリスのチュードレンズ・ミュージアムの中にも、絵本原画を所蔵、展示を行っているところも増えてきている。

### 絵本原画展の歴史

絵本のために描かれたオリジナル・イラストレーション（絵本原画）の展示会をいう。

古くは、1924年には武井武雄が「童画」という言葉を生むきっかけになった東京銀座の資生堂画廊での展示会「武井武雄童画展」を、さらには、1927年に結成された日本童画家協会も東京や大阪で童画展を開催している。

1945年以降、絵本画家たちが自主的に主催して小規模な絵本原画やイラストレーションの展示会は開催された。1946年に結成された日本童画会、'61年に結成された日本童画家協会、日本児童出版美術家連盟等がそれぞれ主催した展示会の他、絵本画家のグループ展も徐々に開催されるようになってくる。絵本原画展を一般的な存在にしたのは、1966年、絵本出版社の至光社と書店の丸善が共催で開催をスタートさせた「世界の絵本原画展」で、1969年以降、全国数箇所での巡回展が行われるようになり、一層の広がりを見せた。

1976年、公立美術館である西宮大谷美術館が公立美術館でははじめて、「絵本原画展」に取り組む。同館では、78年以降、イタリア・ボローニャ国際絵本原画展を開催、81年には板橋区立美術館もともに同展に取り組むようになり今日に至っている。82年には、東広島美術館も、独自に現代絵本作家原画展をスタートさせているが、この時期、開催されていた絵本原画展の多くは、図書館、書店、デパートの催事場で開催されることが多かった。その背景には、極一部の美術館を除いて、絵本原画展の開催を考える美術館はなく、美術関係者や美術館の学芸員で、絵本の原画を美術品と考える人も少なく、無論、絵本原画の作品保存といった視点を持つ人もほとんどなかった現実がある。従ってこうした公立美術館の先駆的な役割は高く評価される。

1986年、日本国際児童図書評議会（JBBY）は、日本で開催された子どもの本の世界大会を記念して、東京都庭園美術館で、「日本の子どもの本歴史展」を開催した。日本の絵本のルーツを「絵因果経」に求め、絵巻、奈良絵本から、赤本、黄表紙までを紹介した本展は、所謂、絵本原画の展示ではなかったが、その後の絵本原画展に研究的な視点を加える上で、果たした役割は大きい。90年代には、バブル経済に伴い国際的に力を増した円の影響を受け、多くの海外の美術館コレクションを借り受けての大型展が次々に開催された。絵本の世界でも同様に、海外から作品を借り受けての絵本原画展が多く開催された。その後、経済破綻を経て、ファインアートの大型展は経済的に開催が難しくなっていくが、比較的安価に開催ができる絵本原画展は取り組まれつづけた。その背景には、美術館の世界でも、子どものための企画が求められ、子どものための企画には、予算が付きやすいという傾向もある。結果、安易な取り組みや、興業的な収益性のみが優先され、美術展なのかアミューズメントパークなのかわからない、といった絵本原画展も生まれてきている。

絵本の原画展は、あくまでも美術鑑賞の場であり、絵本では伝わりきれない細部を発見する喜びや、画家の筆づかいや絵に込められたエネルギーを感じ取

り、絵本を読むこととは異なる感動や喜びが得られる体験である。「子どもが楽しめる」「子どもにとって親しみやすい」という理由での絵本原画展での過剰な装飾や演出は、芸術を楽しむということにおける人間の可能性をも矮小化させる可能性を孕んでいて看過できない。

\*

参照

本書 p605-607 絵本美術館及び絵本原画等を所蔵する美術館・博物館・文学館  
リスト

本書 p608-611 絵本原画展リスト